

2024 年度 T I 実技報告書④遠征登山(栗沢山)(A,B 合同)

山域・山名	栗沢山、標高 2714m ※甲斐駒ヶ岳より予定変更
日程	2024 年 7 月 15 日(月)
メンバー	A,B 合同グループ スタッフ 4 名 スクール生 9 名
天候	雨のち曇り、気温:15 度 8~9 時頃に雨は止む。風は強くなる予定で稜線上では風速 10mを超える予報。
行程と記録	<p>◆天候的にも時間的にも甲斐駒ヶ岳は無理なので、栗沢山へ変更。 ◆当初の予定 6:00 出発から 6:30 へ変更。</p> <p>6:30 全体でストレッチ・ミーティング 田中講師「登りで 2 時間、往復でも 4 時間、5 時間かけてもいいので安全にゆっくり歩きましょう。本日の地形は稜線を歩いていく。 ゆっくりしたペースで上がる。1 時間で 300m上がる。今日は 700m上がるのでやっぱり 2 時間はかかる。足元が濡れていて滑りやすいので慌てずゆっくり歩く。」</p> <p>6:30 北沢峠(2036m)出発 気温 15 度 湿度 96% 雨が上がった。 衣服は上下のカッパ+ゲイター着用。</p> <p>6:48 長衛小屋(営業小屋、宿泊あり、テント場あり)通過。 雨なし。</p> <p>6:49 橋を渡って、栗沢山登山口。</p> <p>6:50 1 回目の渡渉。 地図上にはない小さな川。</p> <p>6:51 2 回目渡渉。 同じ川を上流で渡る。この後、登山道は谷を離れて尾根上歩き。</p> <p>6:58 休憩(4 分)。 水分補給・衣服調整。カッパの上を脱ぎ T シャツに。</p>



7:17 衣服調整。カッパのズボンも脱ぐ。雨なし。

7:39 休憩 5 分。

雨で木の根が滑りやすくなっているため、注意して歩く

8:14 衣服調整。

高度が上がるとともに風が強くなってきた。カッパの上着着用。

雨なし。気温 12.8 度 湿度 HH。

樹林帯を抜けてハイマツ+岩場。

ハイマツの間にシャクナゲが咲いていた。

昨日の仙丈ヶ岳に比べると花の種類が少ない。山頂直下は岩歩き。



9:11 山頂直下の岩場で撤退(2680m)。

まっすぐ立っているのがしんどい程の強風。風が息をしており、いきなり突風が入ったときはふらつくほどの風。安全のために山頂を踏まずに撤退。

9:15 休憩 5 分。

風の当たらない場所で軽食と水分補給。5 分の休憩でも立ち止まると寒い。

9:40 ごろ、ようやく
雲の切れ間に青空と
山が見え始めた。



10:15 休憩 5 分。

濡れた岩場や木の根っこに
注意をしながらゆっくり下山。

特にこのような根を縦に
踏まないように注意。



	<p>10:50 休憩・衣服調整。 樹林帯に入ると風が落ち着き、高度が下がるとともに暑くなってきた。カッパの上着を脱ぐ。気温 16.5 度。</p> <p>11:13 登山口付近の川を 2 回渡渉。 大きな川の橋を渡る。</p> <p>11:16 長衛小屋到着。</p> <p>11:30 こもれば山荘到着。</p>
感想	<p>・早朝までの雨で登山道は濡れており水たまりもあった。樹林帯では木の根っこがあちらこちらに張り出しており踏んで滑らないように歩くのに神経を使った。 岩場も濡れており滑りやすかった。地面が雨で緩んでいるため浮石や今まで動かなかった石が動くこともあったため注意しながら歩く必要があった。 山頂直下の岩場では、かなり強い風が吹きはじめたが最初は歩けそうだったと思った。 ほんの 5～10 秒で立っているのがやっとの強風に変わり、いきなり体が持っていかれそうな爆風が吹いて少しふらついた。スタッフの「引き返そう」という言葉で引き返した。 朝のミーティングで風が 10m を超すと教えてもらっていたが、体感してみないと実感できなかった。今回はシビアな場所での強風ではなかったため、命の危険は感じなかったが、これが梯子やもっと足場が狭かったり、不安定な場所だったら滑落や転倒事故につながったかもしれない。今回の遠征では雨や強風での山行を経験したことで、山行前の天気予報の確認の大切さを実感した。(杉本)</p> <p>・予定していた行程より歩行時間や標高差などは低くなり難易度が下がったものの、登り始めると前日の疲れによりなかなか足があがりにくかったりするなど足取りが重く、自分の体力レベルを改めて実感する 2 日目となった。ただ、参加者でしっかりコミュニケーションを取りながら休憩や衣服調整の時間を取ることもでき、無理なく楽しく歩くことができた。 また、天気、スケジュール(下山すべき時間)、参加者の状態などを総合的に考え、臨機応変に行動計画を変えていくことの大切さを非常に感じた。(自分でその判断ができるようになる道のりは遠そう…ということも実感しました。)天候には恵まれなかったが、その分学びの多い山行となった。(黒田)</p> <p>◆講師より 「天気に関しては山行当日も出発前に最新の情報を確認する。」 「当日登山道ですれ違う人たちとは積極的にコミュニケーションをとって最新の情報を教えてもらう。今山頂からおりてきた人は最新の天候の情報や登山道の状況を言っているので教えてもらい参考にする。」</p> <p style="text-align: right;">(記録:杉本誠子/黒田亮子)</p>